

令和2年度第1回化学物質審議会
産業構造審議会製造産業分科会化学物質政策小委員会(第8回)
議事要旨

日時: 令和3年2月1日(月曜日)13時30分～15時10分

場所: オンライン開催(非公開)

出席者(五十音順。※は小委員会委員、審議会委員を兼務)

化学物質審議会

東海会長※、浅野委員、緒方委員※、織委員、柿本委員、笠井委員、金藤委員、坂田委員、
崎田委員※、東嶋委員※、山田委員※(苅宿氏代理出席)

産業構造審議会製造産業分科会化学物質政策小委員会

東海委員長※、大石委員、緒方委員※、榮委員(植垣氏代理出席)、崎田委員※、東嶋委員※、
飛原委員、森川委員、山田委員※(苅宿氏代理出席)

議題

- (1) 化学物質管理政策をめぐる最近の動向と今後の方向性について
- (2) 化学物質審議会の審議状況等についての報告

議事概要

- (1) 化学物質管理政策をめぐる最近の動向と今後の方向性について

- ・議題(1)について資料1～7を用いて事務局から説明の後、自由討議。
- ・委員からの主なコメントは以下の通り。

■化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)関係

- ・新規化学物質の審査特例制度の改正により、予見可能性や用途情報の管理について定着しつつあるが、事業者の自主管理の促進のため、用途情報の確認方法の状況について情報を出していただくとい。
- ・ウェイトオブエビデンスの考え方の導入を引き続き検討いただきたい。

■特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(化管法)関係

- ・政令改正の公布及び施行について、事業者はコロナ禍の状況や他法令の改正への対応等により、短期間での対応が難しい可能性があるため、十分な準備期間を設けていただきたい。
- ・PRTR 制度の排出・移動量について、最近は数値が横ばいになっている。事業者や地域の自主的な取組のさらなる促進に向けた方策について検討いただきたい。

■フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン法)等関係

- ・フロン類の機器廃棄時の回収率が低迷している。フロン類の回収率の向上のため、事業者等への周知や関係省庁との連携等について、引き続き進めていただきたい。

- ・グリーン冷媒への転換について、海外の動向も把握しつつ、コストや技術面の課題解決に向けて、技術開発や補助金等による普及のための施策を進めていただくとともに、安全に使用するための取組も進めていただきたい。

■その他横断的な取組について

- ・手続きの電子化については、2025 年を待たずにできるだけ早めに整備いただくとともに、電子化率の向上に向けて丁寧なサポートをしていただきたい。
- ・ポスト SAICM で議論されているとおり、ライフサイクル全体を見据えた化学物質管理が今後重要になる。循環型経済の構築に向けて、関係省庁と連携して取り組んでいただきたい。また、欧州ではビジネスの観点も含めて資源循環や化学物質管理政策を展開しているため、日本においても欧州の動きに遅れないよう、資源、グリーン、経済という観点も含めて今後の化学物質管理政策を検討いただきたい。
- ・新しい化学物質管理制度の構築は重要であるが、中小企業への周知や啓発の着実な実施をお願いしたい。
- ・化学物質管理の人材が産業界、アカデミアともに減少してきている。欧米に遜色のない専門人材の育成につながる施策を検討いただきたい。

(2)化学物質審議会の審議状況等について

- ・資料8を用いて、事務局から説明の後、自由討議。
- ・委員から特段コメント等はなし。

お問合せ先

製造産業局 化学物質管理課

電話:03-3501-0080

FAX:03-3501-6604